

2012年12月期 決算説明資料

カルナバイオサイエンス株式会社
代表取締役社長
吉野 公一郎

JASDAQ

証券コード:4572

1. 2012年12月期 経営成績の概要	・・・ 3
2. 2012年12月期 トピックス	・・・ 10
3. 中期経営計画	・・・ 19

- ✓ 売上高は、対前期比13.8%減
- ✓ 営業損益は、売上高の減少、研究開発費増(販管費減により悪化幅縮小)により前期より悪化
- ✓ 経常損益は、営業損益の悪化及び補助金収入の減少等(為替差益により悪化幅縮小)により前期より悪化
- ✓ 当期純損益は、経常損益の悪化(特別損失の減少により悪化幅縮小)により前期より悪化

(百万円)

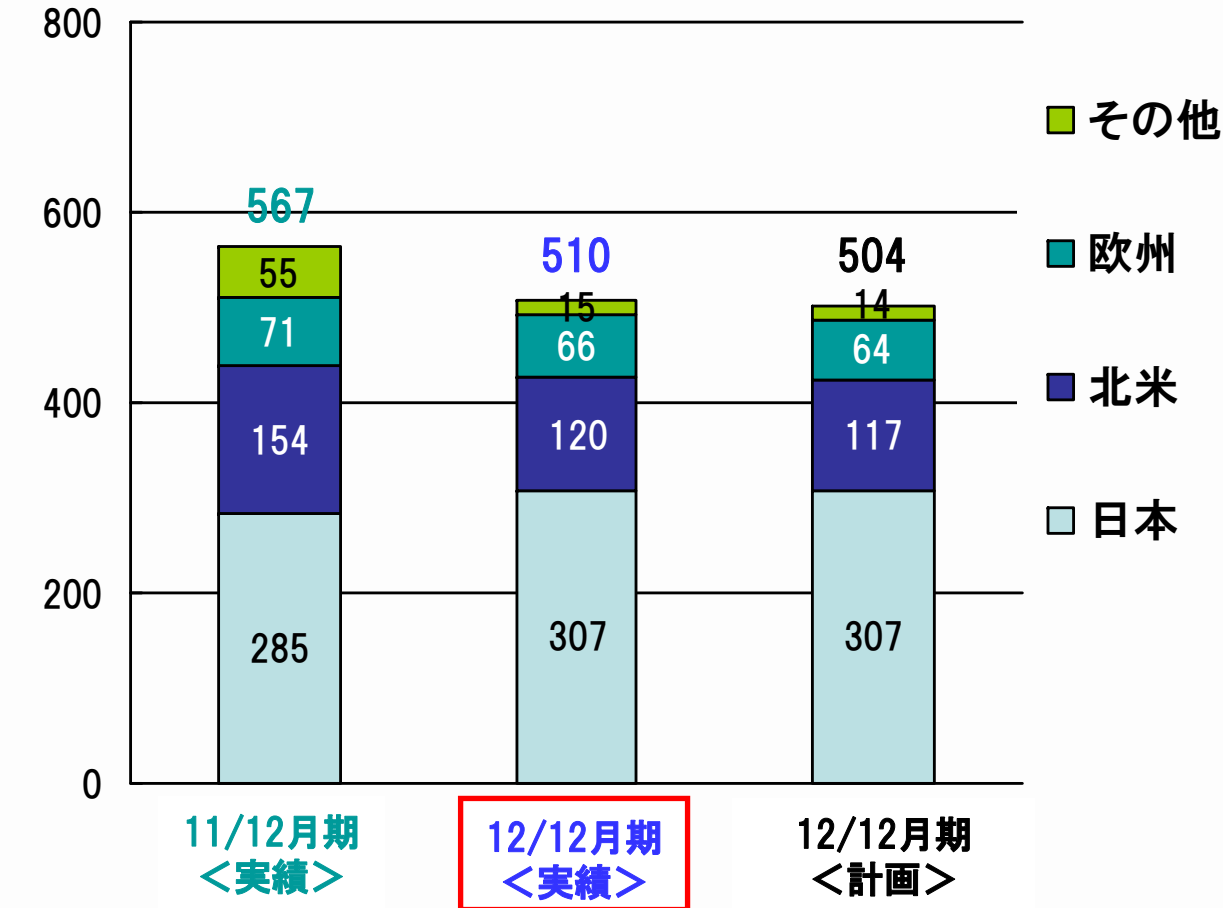
	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
2012年12月期実績 (a)	510	△457	△442	△449
2011年12月期実績 (b)	592	△393	△340	△361
対前期比 (c)=(a)-(b)	△81	△64	△102	△88
対前期増減率 (d)=(c)/(b)	△13.8%	—	—	—
2012年 計画値 (e)	504	△462	△452	△460
対通期計画比 (f)=(a)-(e)	+6	+4	+10	+10

(注1) 百万円未満は切り捨てて表示しております。

(注2) 当期通期計画値は、2012年12月21日発表の修正通期計画に基づいております。

(注3) 対通期計画に対する進捗率における、「営業利益」「経常利益」「当期純利益」の値はそれぞれ損失を計上しているため数値を表示しておりません。

地域別売上高(連結)



創薬支援全体の売上は
前期比10.0%減

・国内は前期比7.7%増
⇒セルベースアッセイ増

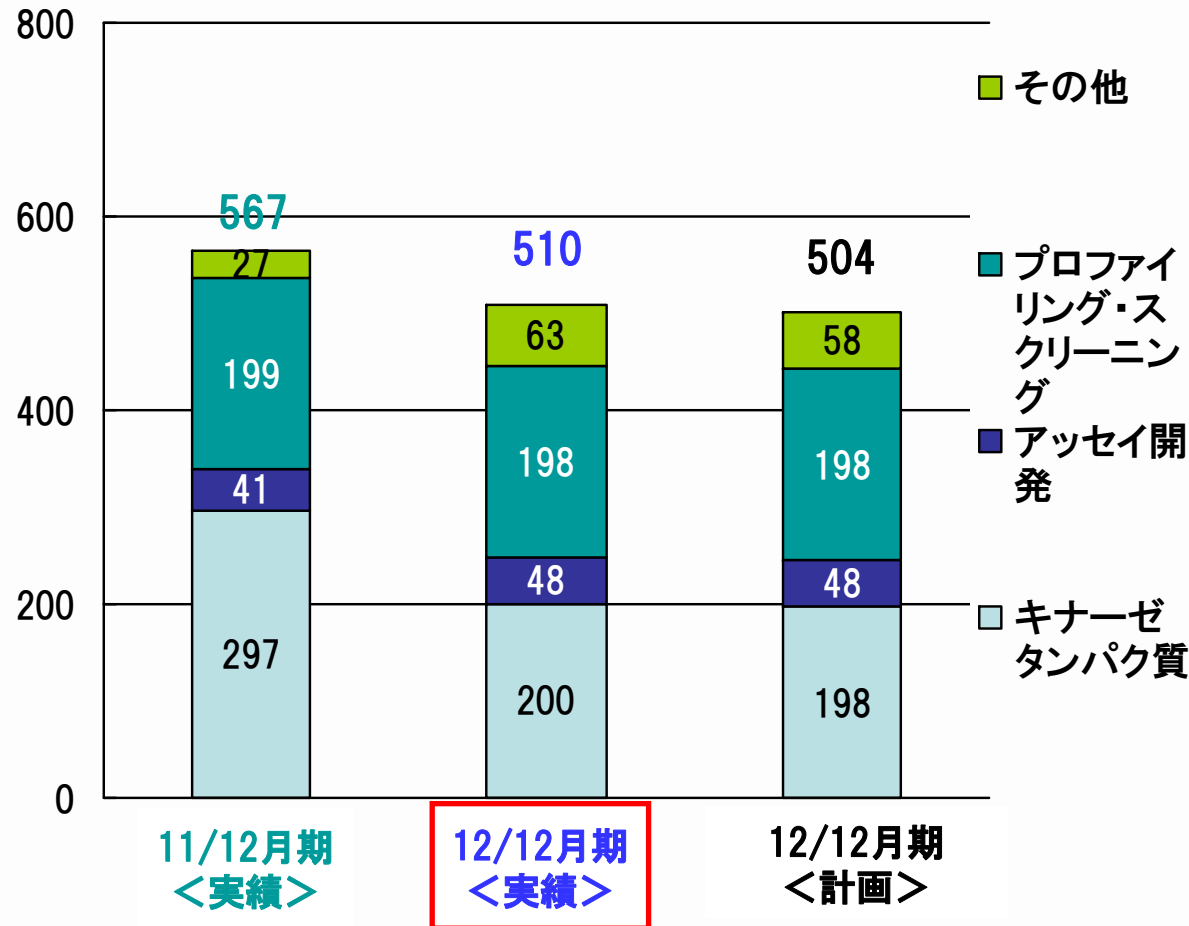
・北米は前期比21.7%減
⇒製薬企業研究所の統廃合
バイオベンチャーヘシフト

・欧州は前期比6.9%減
⇒タンパク販売減
セルベースアッセイ売上増

・その他は前期比72.6%減
⇒韓国でのバルクタンパク特需なし
中国の売上伸び悩み

海外売上比率(創薬支援事業)
2011年12月期 49.6%
2012年12月期 39.7% 9.9%減

(百万円) 製品別売上高(連結)



- ・タンパク質販売は前期比**32.7%減**
⇒全地域で前期より売上減少
- ・プロファイリング・スクリーニングサービスは前期比**0.7%減**
⇒国内で売上伸ばすも、欧米が低迷
- ・アッセイ開発は前期比**15.7%増**
- ・その他は前期比**127.2%増**
⇒CRELUX社のX線結晶解析サービスやACD社のセルベースアッセイサービスの売上増

- ✓ 海外売上高の減少による売上減少が収益悪化の主な要因
- ✓ 経費節減活動を継続するものの営業損益は対前年度比64百万円の減少

(百万円)

		2012年12月期実績	2011年12月期実績	前期比(増減)	主な増減理由
売上	創薬支援事業	510	567	△56	海外売上高の減少(対前期比27.9%減)等による
	創薬事業	—	25	△25	共同研究による分担金収入等の減少
	合計	510	592	△81	
売上原価		210	202	8	仕入サービス増による
売上総利益		300	390	△90	
販管費	研究開発費	376	358	18	RPPA関連研究費用の増加等
	販管費 (研究開発費を除く)	381	425	△44	経費節減
	合計	758	783	△25	
営業損益		△457	△393	△64	
営業外損益		15	53	△37	補助金収入(減:近畿経産局57百万円、増:基盤研19百万円)為替差益増 +8百万円
経常利益		△442	△340	△102	営業損益悪化+補助金収入減
特別損失		5	14	△9	資産除去債務基準適用影響額の減少
当期純利益		△449	△361	△88	

(単位:百万円)

	2012年12月末	2011年12月末	増減額	増減理由
流動資産	913	1,123	△209	
現金及び預金	654	701	△46	運転資金
有価証券	—	200	△200	譲渡性預金の減少
その他	258	221	36	売掛金増等
固定資産	203	194	9	RPPA関連設備導入等
資産合計	1,116	1,317	△200	
負債合計	236	298	△62	長期借入金の返済による減少等
純資産合計	880	1,019	△138	
負債・純資産合計	1,116	1,317	△200	

	2012年12月期 実績	2011年12月期 実績	増減
営業活動による キャッシュ・フロー	△425	△350	△74
投資活動による キャッシュ・フロー	△37	△7	△30
財務活動による キャッシュ・フロー	241	16	224
増減額	△219	△341	121
現金及び 現金同等物の残高	611	831	△219

税引前当期純利益の悪化による (百万円)

第三者割当増資による

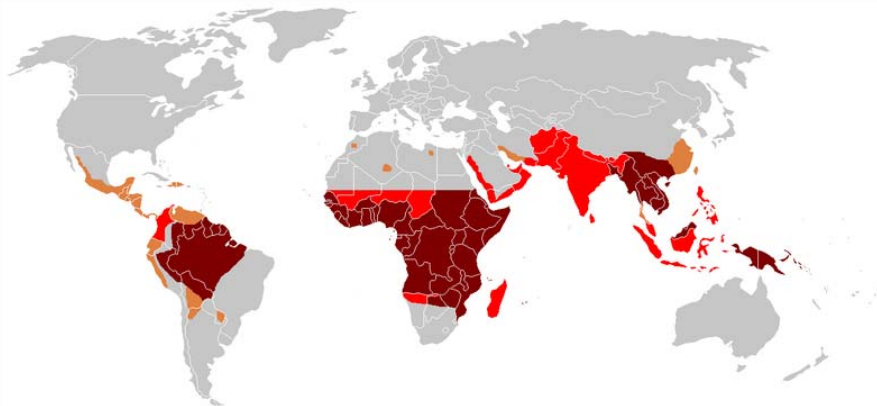
RPPA関連機器等設備投資増

1. 2012年12月期 経営成績の概要	・・・ 3
2. 2012年12月期 トピックス	・・・10
3. 中期経営計画	・・・19

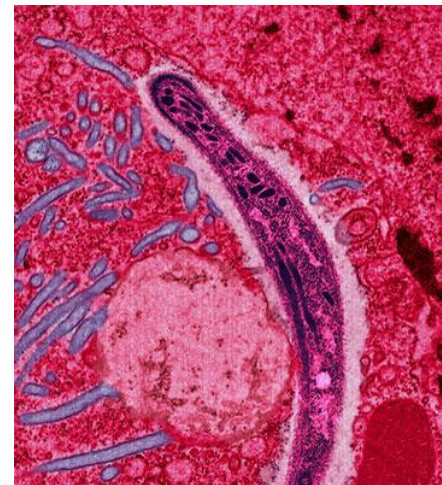
北里大学 北里生命科学研究所との共同研究が A-STEPに採択

平成24年1月10日公表

マラリアとは・・・熱帯から亜熱帯にかけて広く発生する原虫感染症



マラリアの流行地域



マラリア原虫の電子顕微鏡写真
(wikipediaより引用)



マラリア原虫を媒介する
ハマダラカ
(wikipediaより引用)

2010年度

マラリアによる年間の罹患者数 2億1600万人

死亡者数 65万5000人

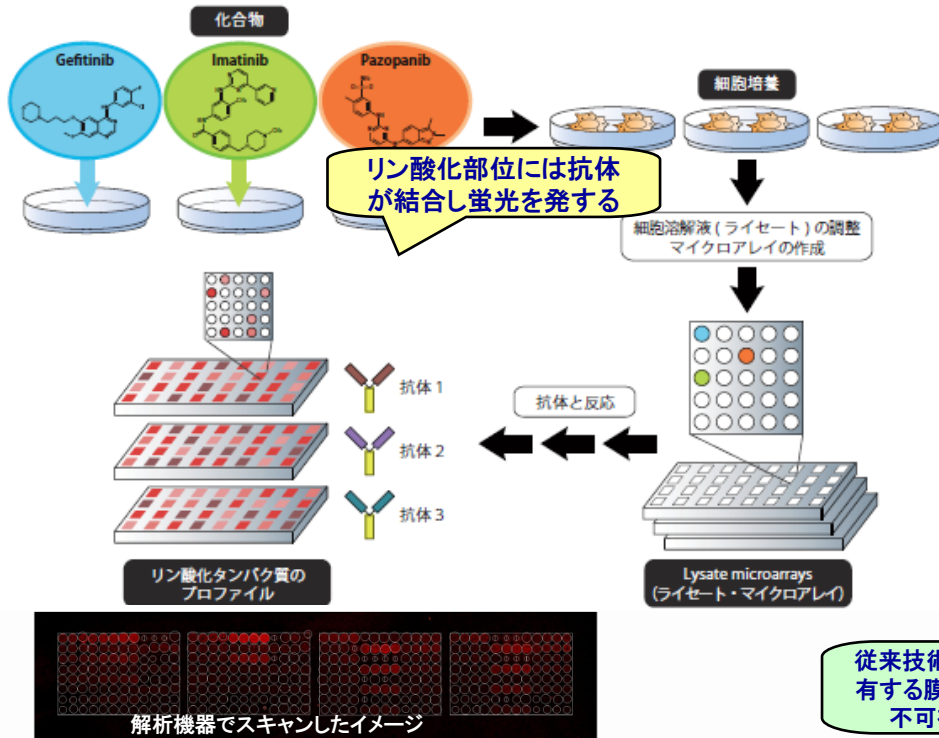
(「WORLD MALARIA REPORT 2011」より引用)

マラリアキナーゼのキナーゼ活性を阻害
する分子標的薬を2011年より共同研究。

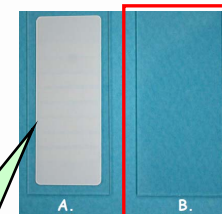
独立行政法人国立がん研究センターとの独占的実施契約締結 のお知らせ (RPPA技術) 平成24年2月27日公表

独)国立がん研究センターから導入したRPPA技術に基づく リン酸化シグナルの網羅的解析サービスの提供開始 平成24年7月2日公表

RPPA・・・Reverse Phase Protein Array:逆相タンパク質アレイ)



細胞溶解液を載せたガラスプレート



従来技術では蛍光成分を有する膜が微細な蛍光を不可視とってしまう

【本技術の特長】
細胞溶解液をサンプルとして1枚のガラスプレートの上に多数スポットして、タンパク質のリン酸化状態を同時に多数解析することができます。
これにより、高効率に網羅的に細胞内のリン酸化シグナルの状態を確認することができます。



**研究者向け
自社主催セミナー開催**
7月4日 東京品川
7月6日 神戸先端医療センター

米ACD社とのセリン・スレオニンキナーゼのセルベースアッセイ技術開発に係る共同研究開始 平成24年5月11日公表



TKは全てで約90種類

400種類以上あると言われるセリン・スレオニンキナーゼ(S/ThK)が対象

ACD Cell-Based TK Assays Available for Screening Services

Total 61 Kinases - Broad Coverage of the Tyrosine Kinome!

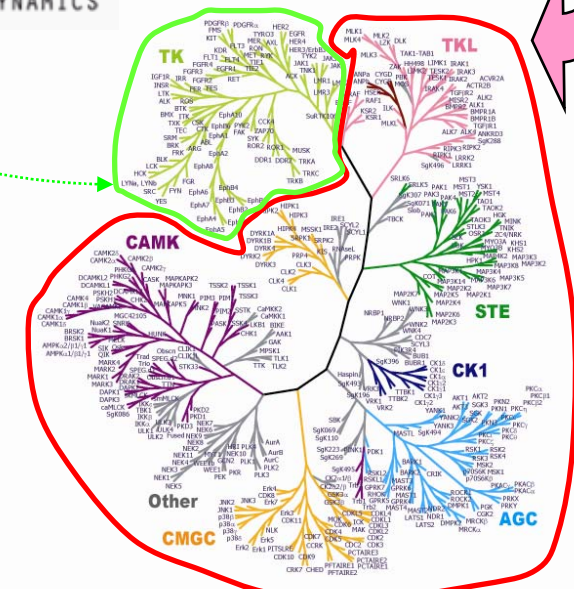
ABL (BCR-ABL)	EphA1	FLT1	KIT	SYK
ALK	EphA3	FLT3	LCK	TIE1
ALK[L1196M] New!	EphA4	FLT4	LYN	TIE2
ARG (ABL2)	EphA5	FMS (CSF1R)	MER (MERTK)	TRKA (NTRK1)
AXL	EphB1	FRK	MET	TRKB (NTRK2)
BLK	EphB2	HCK	PDGFR α	TRKC (NTRK3)
BMX	EphB4	HER2(ERBB2)	PDGFR β	TYK2
BTK	FAK	IGF1R	RET	TYRO3
CCK4 (PTK7)	FGFR1	INSR	RON (MST1R)	ZAP70
EGFR	FGFR2	JAK1	ROR1	
EGFR[s746-750] New!	FGFR3	JAK2	ROS (ROS1)	
EGFR[L858R] New!	FGFR4	JAK3	RYK	
EGFR[L861Q] New!	FGR	KDR	SRC	

Updated : 2012/7/20

61種類のチロシンキナーゼ(TK)でアッセイ可能



CARNA BIOSCIENCES

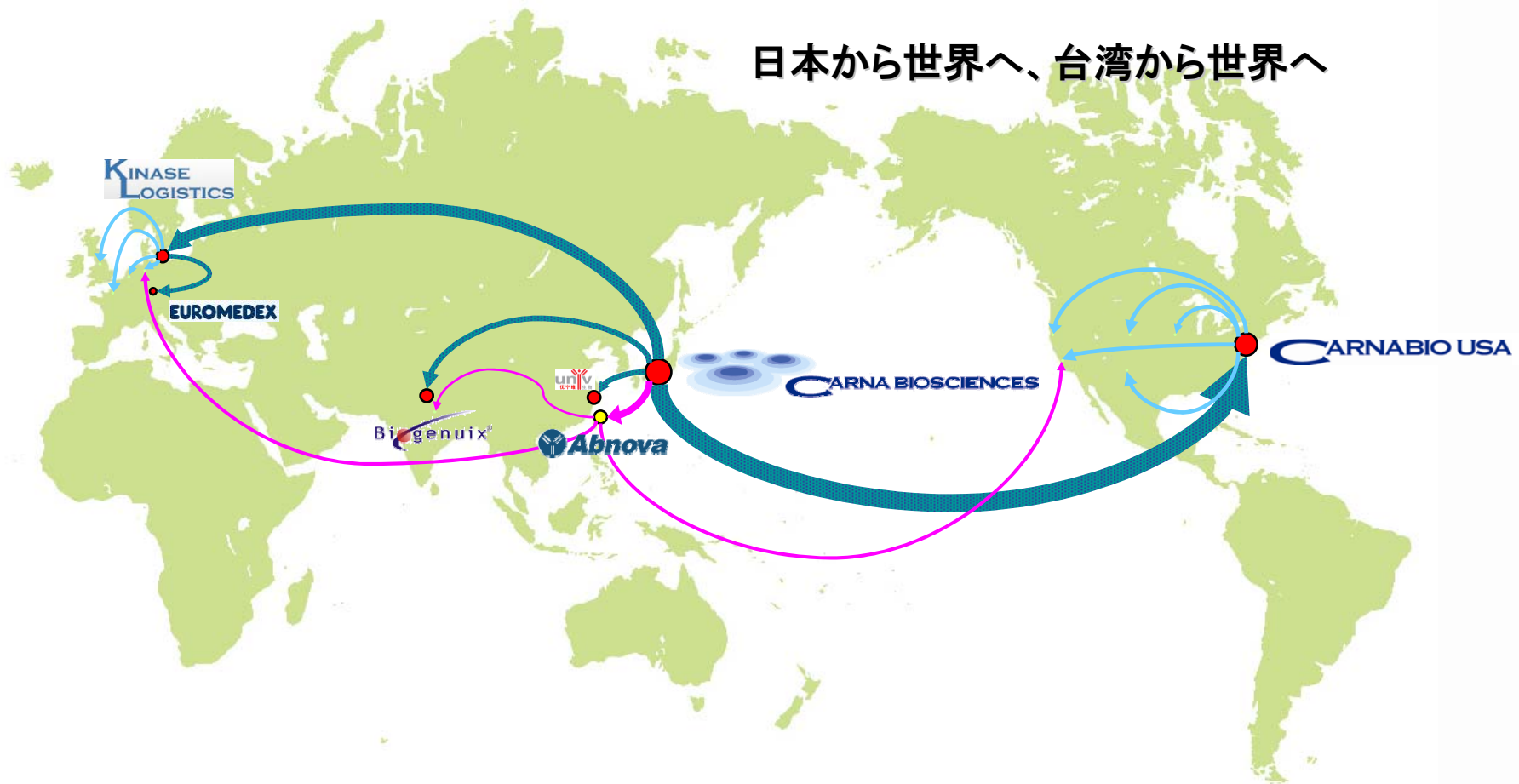


※ 当社の神戸ラボで共同研究中

台湾Abnova社とバルクタンパク質OEM供給契約を締結

平成24年5月18日公表

日本から世界へ、台湾から世界へ



神戸大学との新しい構造科学に基づく 先端的創薬技術の共同研究契約締結 平成24年7月20日公表



KOBE
UNIVERSITY



CARNA BIOSCIENCES

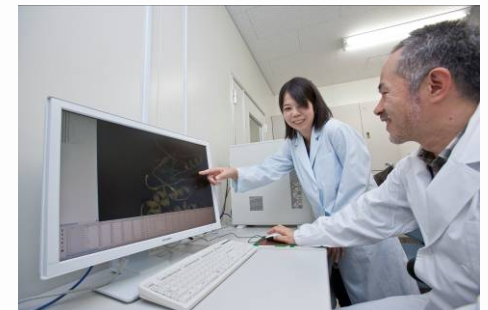
デュアルキナーゼ阻害剤を新たなアプローチで設計し、画期的な新薬につなげる

大型放射光施設 SPring-8 の活用



(wikipediaより引用)

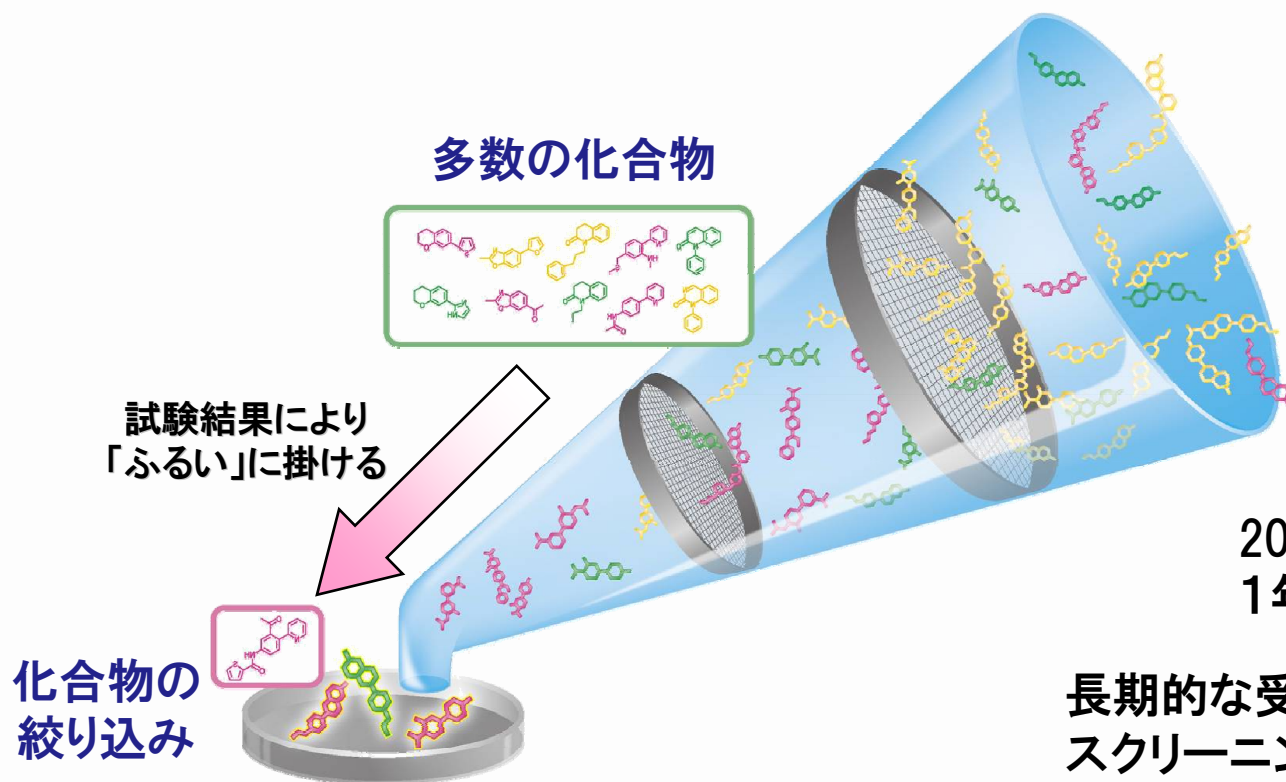
財団法人計算科学振興財団の
FOCUS(スーパーコンピュータ)の活用



地の利を活かして兵庫県に集積する最先端のデバイスを駆使できる
平成24年11月1日付 神戸新聞 朝刊1面に掲載

小野薬品工業株式会社からの 大規模キナーゼスクリーニングサービスの受託 平成24年10月4日公表

委託元から受け取った化合物について、当社の創薬基盤技術を用いて、特定のキナーゼについて薬効があるかどうかを確認し、医薬品として可能性がある化合物を選び出すことを「キナーゼスクリーニング」といいます。

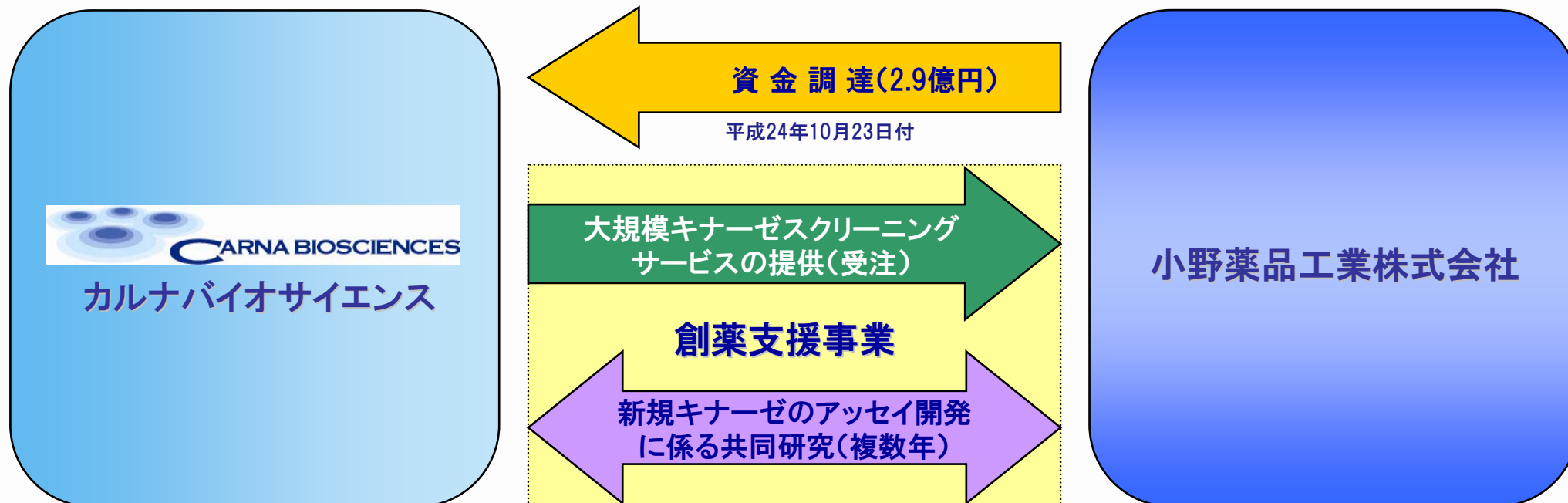


2012年11月より2013年10月までの1年間で実施。

長期的な受託試験計画を立案し、効率的にスクリーニングが実施可能なため、当該サービスの利益率向上に寄与する。

小野薬品工業株式会社に対する第三者割当増資、 新規キナーゼアッセイ系の共同研究契約締結方針を発表

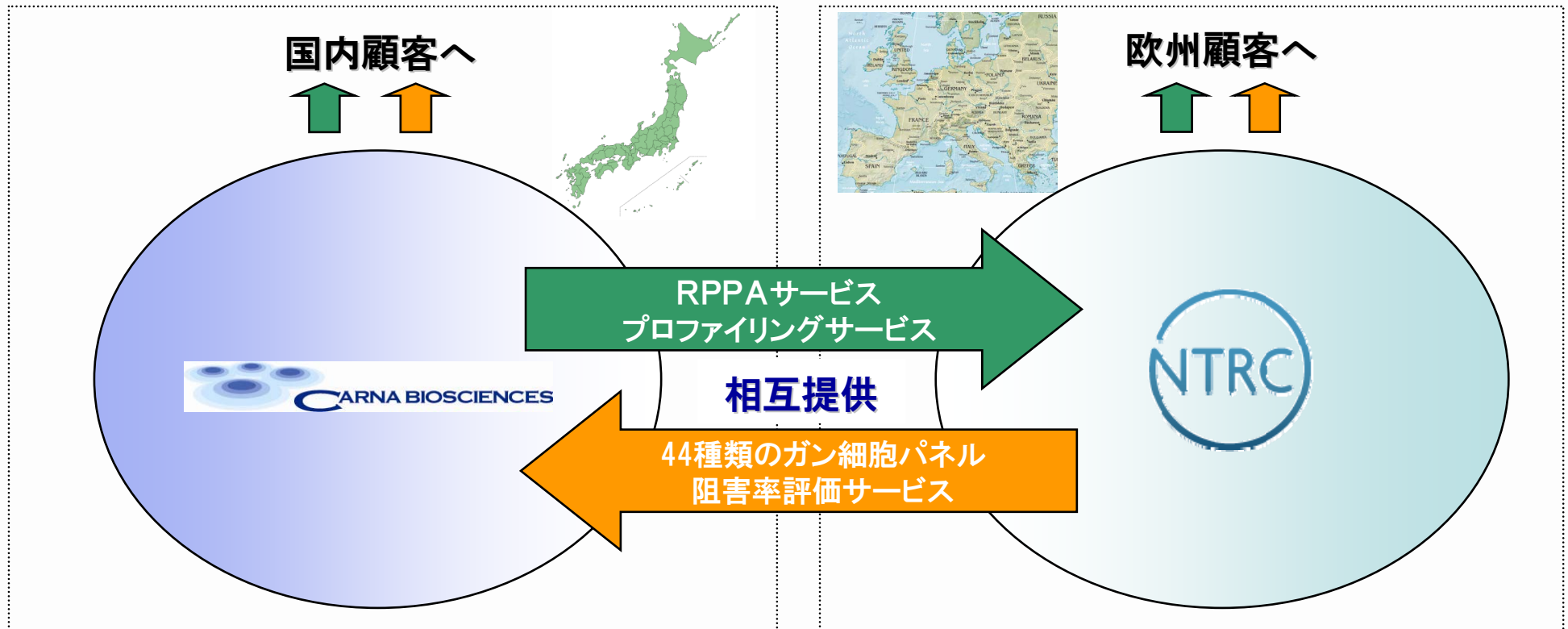
平成24年10月4日公表



今回調達した資金により、当社の創薬研究のスピードを加速し、前臨床研究及び新規研究テーマならびに既存テーマの化合物最適化に注力。

オランダNTRC社のガン細胞パネルの提供 当社RPPAサービス、プロファイリングサービスの販売斡旋

平成24年11月16日公表



NTRC社ガン細胞パネルと当社アッセイ系との
コラボレーションによる最適な評価スキームの提供

1. 2012年12月期 経営成績の概要	・・・ 3
2. 2012年12月期 トピックス	・・・ 10
3. 中期経営計画	・・・ 19

【基本方針】

- 2013年度営業損益の黒字化を目指す
- 2013年4月に創業10周年を迎え、第二創業として、新たな飛躍を目指す

【セグメント別】

◆創薬事業

- ① アンメット・メディカル・ニーズが高い疾患領域、特にガン領域への研究リソースの選択と集中
- ② 当社研究テーマの大手製薬企業等への早期ライセンスアウト
- ③ 当社研究テーマの臨床試験段階への早期ステージアップ
- ④ 新規創薬研究テーマに係る化合物の早期最適化

◆創薬支援事業

- ① キナーゼ阻害剤に係る創薬支援ビジネスの拡大(売上高、販売シェア)
- ② 業務改革によるコストダウンの推進及び利益率の向上
- ③ セルベースアッセイ等に代表される当社オンリーワン製品、サービスの品揃えの拡大

- ▶ ガンを継続的に重点領域とする
- ▶ ライセンスアウト活動を通じて、研究への投下資金の回収を目指す

主な研究パイプラインの研究ステージ

2012年12月末現在

キナーゼ (対象疾患)	非臨床	臨床試験 (治験)	承認 申請	上市
TNIK (大腸ガン)				
CDC7/ASK (ガン)				
BTK (ガン・免疫炎症疾患)				
DYRK1A (神経変性疾患)				

研究パートナー

 NATIONAL CANCER CENTER to English

独立行政法人
国立がん研究センター

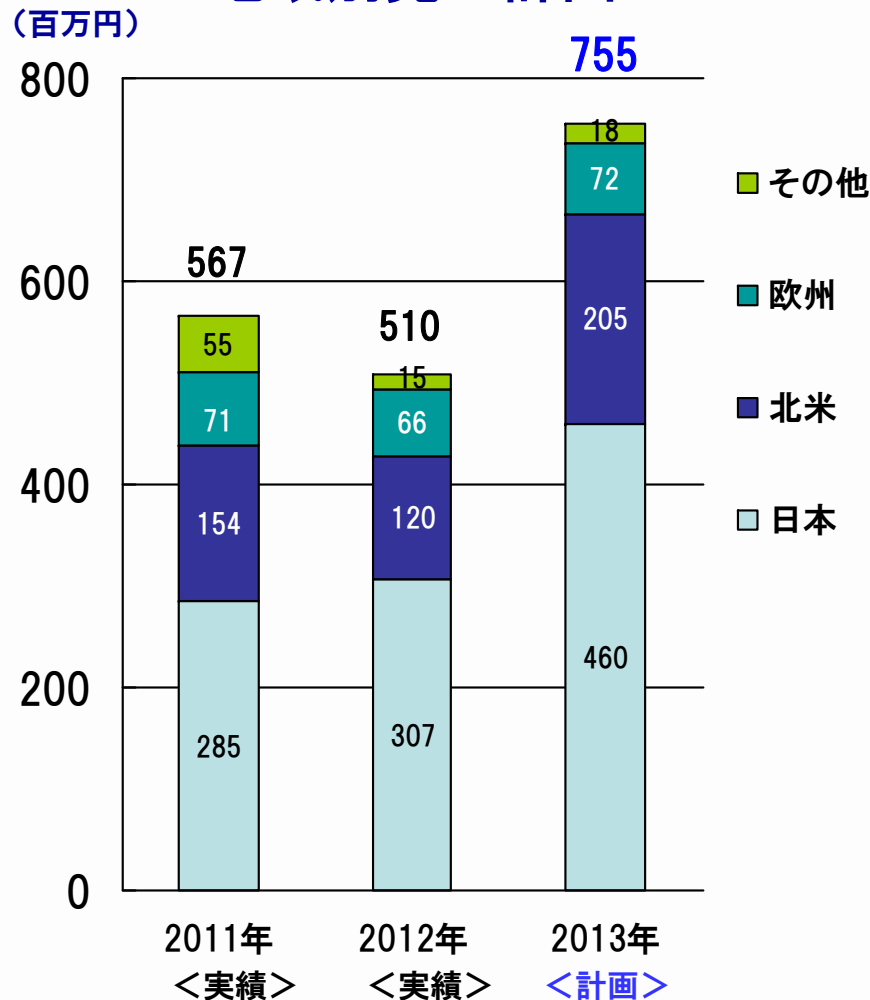
がん研究センター

 **SBI** Biotech
SBIバイオテック社

当社独自研究テーマ

 *Kino*
Pharma
キノファーマ社

地域別売上計画



➤北米市場の売上拡大

- ✓顧客層がメガファーマからバイオベンチャーへシフト
- ✓ガン領域からその他疾患領域への拡大

➤顧客ニーズに応じた製品・サービスの提供

- ✓オンリーワンの追求
- ✓アッセイ系の高次化

➤生産性の向上(コストダウン)による利益の最大化

- ✓工程改善による省力化、生産効率向上
- ✓品質向上による顧客満足度の向上
- ✓大規模スクリーニングビジネス等の拡大

➤販売ネットワークの強化

- ✓代理店網の整備・拡充
- ✓学術サポートの強化

(百万円)

1200

1000

800

600

400

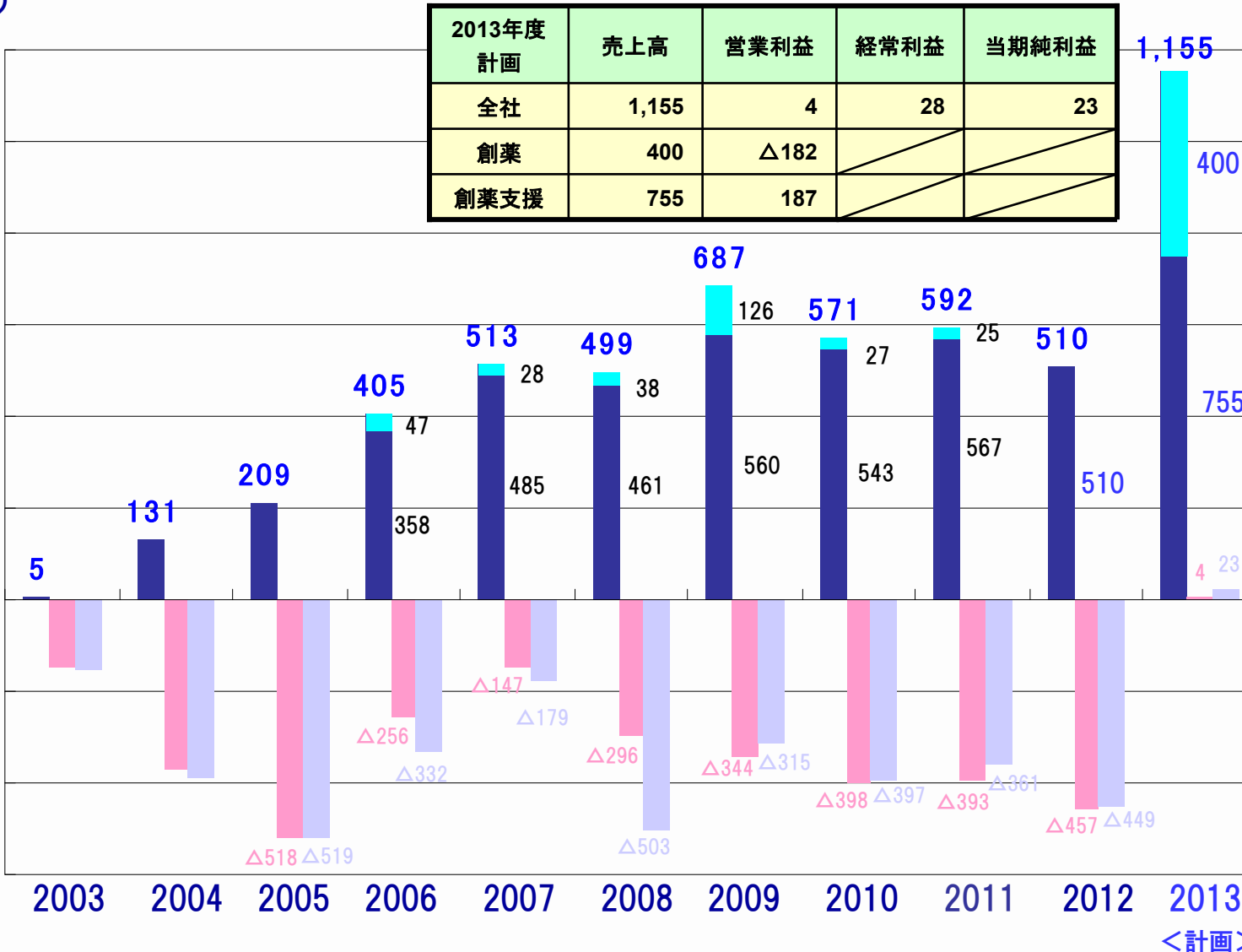
200

0

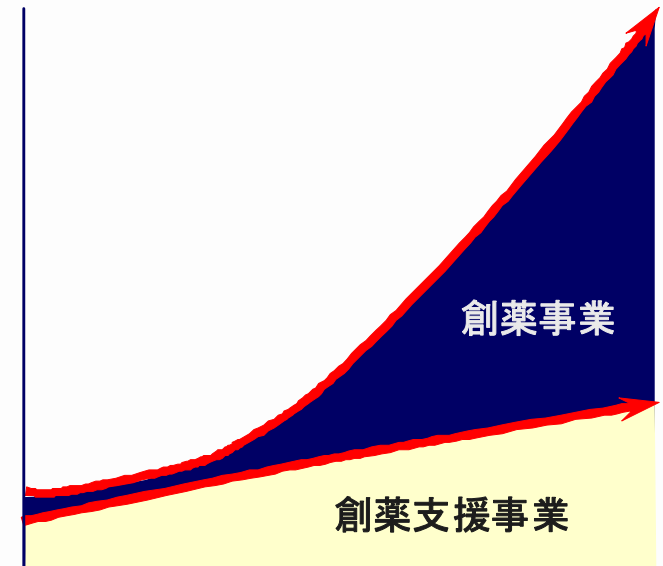
-200

-400

-600



1. 当社の創薬事業は、従来の創薬ベンチャーとは異なり、膨大なコストと開発中止のリスクが高い第3相臨床試験(PIII)以降の段階は手掛けず、それ以前のいずれかの段階で大手製薬企業等に化合物を導出するビジネスモデルを想定しております。
2. 当社は創薬支援事業においては2006年12月期以降黒字化しております。今後も創薬支援事業での売上を伸ばすことで、2013年12月期には、会社全体として黒字化を目指します。
3. 当社は、ガンなどを対象疾患とするキナーゼ阻害薬の創薬研究をスピーディーに進めてまいりますが、一般的には、創薬の成果が実るには長い年月がかかることをご理解下さい。
4. 中長期的には成長トレンドにあるため、カルナバイオサイエンスの株式は、中長期的視野で保有していただきたく存じます。



今後とも一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



カルナ《CARNA》は、ローマ神話に登場する人間の健康を守る女神で、cardiac(心臓)の語源とも言われています。バイオサイエンス《BIOSCIENCES》は、生物学と言われ、生物学(Biology)と生命科学(Life Science)から、つくられた言葉です。「生命科学の世紀」とも言われる21世紀に向けて、カルナバイオサイエンス社とともに新しい女神“カルナ”が誕生しました

カルナバイオサイエンス株式会社
経営管理本部 経営企画部
〒650-0047
兵庫県神戸市中央区港島南町1-5-5 BMA3F
Tel (078)302-7075 Fax (078)302-6665
<http://www.carnabio.com/>
ir-team@carnabio.com

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用下さい。また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的に利用される場合においても、ご自身の判断と責任において利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。